

科目 コード	40013	授業 科目	看護大学ゼミナールⅢ (OPCN Seminar Ⅲ)			担当 教員	○大湾明美 神里みどり 宮里智子 上原和代	
							実務経験：あり	
開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習	
選択必修	必 修	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	看護大学ゼミナールⅡに引き続き、現在の看護に関わる課題を見つけ看護方法を改善するために、看護用具の発明や改善、看護介入および看護システムに関わる改善・工夫など、学生自ら主体的に創造的にその課題を克服する能力を獲得できるように学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に関連した課題についてブレインストーミングを通して仮説を抽出できる。 2. 1の課題の仮説について、文献検討から課題を見出しその根拠を説明できる。 3. 2の課題に対する解決策について、ブレインストーミングを通して、自由に発想し創造的に解決策を見出す。 4. 主体的かつ建設的態度でグループワークに参加できる。 5. 自分と異なる意見に対してアサーティブな対応がとれる。 6. 効果的なプレゼンテーションができる。 7. 問題・課題解決する上で論理的思考、創造的思考の活用の必要性がわかる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1・2回	演習の進め方、問題解決に必要な創造的思考の理解、ブレインストーミングによる課題の抽出)				初回時に提示	大 湾 神 里 宮 里 上 原	演 習	
第3～7回	課題の明確化と解決法の検討 (文献検討・グループ討議)							
第8・9回、	中間報告							
第10～13回	解決法の検討(文献検討・グループ討議)							
第14～15回	プレゼンテーション、振り返り							
テキスト	なし							
参考文献	取り組む課題によって、適宜紹介する。							
他科目との 関連	これまでの講義・演習・実習すべての科目、ならびに個人的経験等と関連する。							
成績評価 の方法	授業への参加 (30%)、プレゼンテーション (40%)、報告資料 (30%)							
学習相談・ 助言体制	オフィスアワー (教員と学生が気軽に話せる場所と機会) を設ける。							
授業改善の 特記事項	オフィスアワーで得られる学習ニーズは、メールや会議等を通して全学的な共有を図る。							
備 考	<p>学生の自主性を尊重する科目である。</p> <p>少人数でのグループワークを中心に行なう。</p> <p>学生は学習時間を確保できるように、アルバイトやサークル等の活動時間を調整する。</p>							

科目コード	37131	授業科目	島嶼保健看護 (Insularity Health and Nursing)			担当 教員	○川崎道子 大湾明美 神里みどり 牧内忍 知念真樹 未定		
							実務経験：あり		
開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保・看)	授業 形態	講義・演習		
選択必修	選 択	時間数	45時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	島嶼の人々を、その背景となる地理・歴史・文化・経済およびそこから培われた生活をとおし て総合的に理解し、これまで学んできた健康の概念と人々の生活との関連性および島嶼にお ける疫学的動向と対策の理解を深め、また健康の全ての段階において保健医療福祉が連携に よって果たす役割と看護支援のあり方について理解する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 島嶼の地理・歴史・文化・経済・制度等にみられる特徴が健康や生活に及ぼす影響を総 合的に理解することができる。 2. グローカルな視点を持ち、国内外・沖縄県内の島嶼の保健・医療・看護の現状と課題を 理解できる。 3. 健康の概念の理解を深め、島嶼における看護職者の役割について考えることができる。 4. 島嶼の看護実践のために重要な概念と理論を概説できる。 5. 島嶼での看護実践のおもしろさとキャリア人生上の意義に気づくことができる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学 習 (学習課題)	担当者名	授業 形態	
第1回	グローバルな視点からみた「島嶼保健看護」「国際保健看護」						川崎	講 義	
第2回	島嶼保健看護の魅力						大湾		
第3回	海外 (アジア・太平洋) の島嶼保健看護の現状と課題						神里		
第4回	国際保健看護の魅力						知念		
第5回	島嶼保健に必要な概念：プライマリ・ヘルスケア、協働連携						大湾		
第6回	沖縄県の離島・へき地の保健医療体制						川崎		
第7回	島嶼における健康危機管理						〃		
第8回	離島訪問のための事前学習(既存資料の収集、訪問計画など)						〃		
第9回	〃 〃						〃		
第10回	〃 〃						〃		
第11回	中間試験 (第1回～7回)						川崎		演 習
第12回	事前学習発表および課題の追加学習						牧内		
第13～20回	離島訪問 (1泊2日：8コマ) ①～③は分担可 ① 関係者及び住民に島の地理、歴史、文化、経済、制度等 について フィールドワーク ② 住民の健康課題と生活及び健康行動について フィールドワーク ③ 保健医療福祉行政の立場より住民の健康状態と課題につ いて フィールドワーク ④ 離島訪問を踏まえ、島嶼の健康課題、対策、看護職者の 役割等について整理し学内で報告 (課題レポート：報告 書 グループ) ⑤ 課題レポート (個人) の作成						未定		
第21・22 回	離島訪問のまとめ								
第23回	報告会								

テキスト	特に指定しない。資料を適宜配布する。
参考文献	「沖縄県離島関係資料」「沖縄県保健医療福祉行政の概要」「村勢要覧」等
他科目との関連	地域保健看護関連の科目を応用して、沖縄県離島、へき地における保健医療福祉の現状と健康課題を理解する。 本科目は保健師課程、看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	授業参加状況20%、中間試験50%、事前学習・離島訪問・報告会への貢献度10%、課題レポート：①報告書（グループ）10%、②個人10%
学習相談・助言体制	授業での疑問や演習課題の相談は、担当教員が随時対応する。離島訪問については、グループの担当教員と相談しながら進める。
授業改善の特記事項	グループワークを取り入れ積極的な授業参加を促す。 島嶼保健看護に必要な概念について離島訪問を通して理解を深める。
備考	指定された日時までに下記を提出する。 1) 学習記録（本授業での学習記録を自分なりにファイルしておくこと；見出し（インデックス）をつけること；新聞の切り抜き、写真など何でも参考資料とする） 2) 課題レポート①（報告書：グループ） 3) 課題レポート②（個人） 4) 自己評価票

科目コード	38111	授業科目	国際保健看護 (International Health Nursing)			担当教員	○知念真樹 川崎道子 大湾明美 神里みどり 横川裕美子(非常勤)	
実務経験：あり								
開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目分類	専門関連科目 (保・看)	授業形態	講義・演習	
選択必修	選択	時間数	30時間					
履修条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	国際的視野から諸外国の地理的環境、歴史、文化、経済、医療政策、疫学的動向と対策、保健看護事情と、人々の生活を理解し、日本国内に在住する外国人の背景と現状を理解する。それらから健康に影響を与える要因および保健医療福祉が果たす役割について考察できる。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護においてグローバルな視点をもつことの重要性が理解できる。 2. 健康に関連する国際的援助機関の役割と活動の実際を理解できる。 3. 世界の各地域（島嶼を含む）における保健医療看護の現状と課題を理解できる。 4. 看護における異文化理解の重要性を述べるができる。 5. 国内に滞在・在住する外国人の背景と健康課題を理解し、看護職の役割を考えることができる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	ガイダンス、グローバルな視点から見た島嶼保健看護と国際保健看護、学生のハワイ研修報告				講義中に課題を提示する	川崎・知念	講 義	
第2回	島嶼保健看護の魅力					大湾		
第3回	海外（アジア・太平洋）の島嶼保健看護の現状と課題					神里		
第4回	国際保健看護の魅力					知念		
第5回	途上国における国際保健看護の実際（知念・ゲストスピーカー）					〃		
第6回	国際保健看護の視点（国内・国外）					横川		
第7回	沖縄における在日外国人に対する国際保健看護の実際（ゲストスピーカー）					知念		
第8回	世界の各地域における保健医療看護の現状と課題					横川		
第9回	健康に関連する日本の援助機関の役割（JICAの活動の実際）					知念		
第10回	SDGsをテーマにしたグループワーク					〃		
第11回	中間テスト					〃	演 習	
第12回	学内演習方法についての説明					〃		
第13～20回	学外演習（インタビュー対象者の国の概要と健康課題の発表、JICA研修員へのインタビュー）					〃		
第21・22回	学外演習のまとめ				〃			
第23回	報告会				〃			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学 [1] 第16版 医学書院 公衆衛生看護.jp							
参考文献	ビバリー・ヘンリー著 国際保健看護 看護の科学社、2005年 田村やよひ編 国際看護学 メヂカルフレンド社 2012年 山崎明美・當山紀子編 やさしく学べる国際保健・看護の基礎と実践 桐書房 2012年 近藤麻理著 知って 考えて 実践する 国際看護 医学書院 2011年 公衆衛生がみえる 2016-2017 メディックメディア、2016年							
他科目との関連	経済学、社会学、保健医療情報、環境保健学、公衆衛生学、疫学の知識を活用して、世界の健康状況を理解する。							
成績評価の方法	授業参加状況 20%、最終報告資料（グループ）10%、個人レポート10%、中間テスト50%							

学習相談・助言体制	出席票に理解できない箇所や疑問点の記載を求め、対応する。
授業改善の特記事項	授業にはグループワークを取り入れ積極的な授業参加を促す。
備考	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修セミナー（ハワイ研修）への参加および課題レポート提出により2単位中1単位（第12回～23回分の読み変え）の認定を行う。 上記学生の場合は、到達目標5の「国内に滞在・在住する外国人」を「ハワイに在住する人々」に置き換える。

科目 コード	40020	授業 科目	卒業演習 (Evaluation Seminar)			担当 教員	○教務委員長 助教以上の全教員	
							実務経験：あり	
開講年次	4年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習	
選択必修	必 修	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	<p>本学が定めた卒業時の到達目標に照らして、自らを客観的に振り返り、自分の到達度を評価し、評価結果を総合的に分析する。不足する知識・技術・態度を主体的に学習し、補充すると共に、能動的学習能力を獲得できるように学習する。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業時に修得すべき知識と技能を示すことができる。 2. 自分に不足している知識や技能を見つけ、再学習の方法を提示できる。 3. 再学習の計画を立て、実行できる。 4. 自分を客観的に振り返ることができる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1～3回	第1回看護統合試験、自己評価、解説				新学期ガイ ダンスで、日程と 共に提示する。	教務委員長 助教以上の 全教員	演 習	
第4～7回	看護技術試験、自己評価							
第8～11回	第2回看護統合試験、自己評価、解説							
第12～15回	第3回看護統合試験、自己評価、解説							
テキスト	なし							
参考文献	適宜紹介する							
他科目との 関連	これまで履修したすべての科目							
成績評価 の方法	毎回の参加度、試験成績を総合的に判断して評価する							
学習相談・ 助言体制	オリエンテーション時にオフィスアワーを提示する							
授業改善の 特記事項	開講年度に提示							
備 考	授業開始前までに自分に不足している知識と技能を見つけて、達成できるように準備しておくこと。							

科目 コード	31126	授業 科目	看護専門職論Ⅱ (Professional Nursing Ⅱ)			担当 教員	○宮里智子 大湾明美 饒平名かおり (非常勤)	
							実務経験：あり	
開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目	専門関連科目	授業	講義	
選択必修	必修	時間数	30時間	分類	(保・助・看)	形態		
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	これまで学習した知識を統合し、専門職業上の問題を探求する。また、社会のニーズに照らして専門職業として看護を捉え、専門職業としての看護の発展に影響する最近の動向について理解を求める。さらに、学生から実務者役割への移行期の課題、ならびに看護専門職の法的、社会的側面にも焦点を当てる。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動を支える社会のしくみ、および、保健医療福祉組織における看護の機能と役割について理解できる。 2. 看護の質評価について理解し、看護ケアの改善における課題について看護管理の視点から考察できる。 3. チーム医療における看護専門職及び他職種の役割を理解し、保健医療福祉サービスの継続性を保障するためのチーム間の協働と連携について説明できる。 4. 医療安全のための医療機関の取り組みと看護の活動・役割について理解し、安全なケアのためにチームとして取り組む意義について説明できる。 5. 看護職のキャリア開発、看護専門職としてのリーダーシップについて理解できる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業 形態	
第1回	看護活動を支える社会のしくみ (1) 保健医療福祉制度				資料配布	大 湾	講 義	
第2回	看護活動を支える社会のしくみ (2) 医療提供体制看護制度・看護政策				P152-182	宮 里		
第3回	マネジメントに必要な基本知識 ・個人・組織・集団・組織の支援 ・看護管理の基礎知識；用語の定義、看護業務基準・ 看護体制・看護方式				P184-217	〃		
第4回	看護管理の実際；看護組織・看護管理者の役割				P60-96	〃		
第5回	看護の質保証・サービスの評価				P145-149	〃		
第6回	看護における安全管理・リスクマネジメント				P25-48, 136-144 配布資料 レポート①提出 (事後) 到達目標 4	饒平名 (非常勤)		
第7回	保健医療福祉サービスの継続性、チーム医療における 看護の役割；保健医療福祉活動における看護の役割と 関連職種との協働連携				配布資料 レポート②提出 (事後) 到達目標 3	大 湾		

第8回	地域包括ケアシステムにおける看護の役割	配布資料	〃
第9回	看護専門職者としてのリーダーシップ	P192-197	宮 里
第10回	看護継続教育；新人看護師研修の努力義務化・クリニカルリーダー	P97-103 P165-170	〃
第11回	看護職のキャリア開発（1）：看護職の専門分化（専門看護師/認定看護師など）	P165-170	〃
第12回	看護職のキャリア開発（2）：体験談から学ぶ	資料配付	ゲストスピーカー
第13回	日本の保健医療システムにおける看護の現状と課題（学生の発表）	発表資料の作成（事前）	宮 里
第14回	臨地実習での自己の看護実践をもとに、看護専門職に求められている看護とは何か（学生の発表）	発表資料の作成（事前）	〃
第15回	臨地実習での自己の看護実践をもとに、ケアの改善における課題を考察し発表する（学生の発表）	発表資料の作成（事前） レポート③提出（事後）	〃
テキスト	「系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①：医学書院 2016		
参考文献			
他科目との関連	看護専門職論 I 本科目は保健師課程、助産師課程、看護師課程の読み重ね科目である。		
成績評価の方法	ミニテスト（20%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（60%） 遅刻・欠席は減点		
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業終了後に、授業を通して理解が深まった点、疑問点や授業に対する感想や要望などの内容の授業評価の提出を求め、次回授業に説明補充を行うことで理解をはかる。 ・オフィスアワーをもうけ、学生からの質問を受ける体制をとる。オフィスアワーは、第1回目の授業で提示する。 		
授業改善の特記事項	毎回の授業終了後に授業評価の提出を求め、その内容を考慮して次回の授業展開を考える。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ミニテストを行うので、事前学習を行って参加する。 ・テキストの該当ページを読んで授業に参加する。 		

科目コード	40142	授業科目	看護統合実習 (Integrated Nursing Practicum)			担当教員	○教務委員長 助教以上の看護教員	
開講年次	4年次 後期	単位数	2単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	実習	
選択必修	必修	時間数	90時間					
履修条件	前提科目	看護専門職論Ⅱ 専門全領域の保健看護実習						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
授業概要	看護専門職論Ⅱ及びこれまで学習した看護の概念と臨床的推論コンピテンシーを統合、拡大、磨くための機会を提供する。施設または地域の場での集中的かつ自立的な臨地実践経験を通して、特定のクライアントおよび集団へのヘルスケアニーズに焦点を当て、先行研究の成果を活用した看護実践を行い、根拠に基づいた看護実践(EBN)について学習する。							
到達目標	<p>下記の実習目標に沿って定められた実習到達目標を別途提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護専門職者としての倫理観と責任感を養う。 2. 看護の対象のおかれた状況を分析・統合し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を養う。 3. 看護を必要とする人々と適切な関係を築き、対象のニーズに基づいた看護を実践できる能力を養う。 4. 看護専門職者としての保健医療福祉等の関連職種間の連携・調整に必要な協働能力を養う。 5. 実践の中で自己の課題に気づき、解決に向けて主体的な学習態度を養う。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
1日目 ～ 10日目	<p>(新学期ガイダンスにて) 概要の説明</p> <p>臨地実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習配置の決定方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 取り組みたい課題および実習したい専門領域・実習施設について学生の希望を調査する。 2) 学生の希望した複数の実習場を考慮して、各学生、各教員ともに不公平がないように、教務委員会で配置領域を決定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学事歴に決められた期間に90時間の実習を行う。 2) 4月中に実習先、担当教員を決定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・希望調査を行い、希望調査にもとづき、配置領域を決定する。 ・各専領域で学生毎の担当教員と実習施設を決定する。 3) 担当教員は、実習計画書の提出に間に合うよう、学生の計画に基づいて、学生とともに実習施設と調整し、実習施設(病棟)、時期を決定する。教員は実習施設に配慮しつつ、準備の段階から学生の自主的行動を促すように関わる。 4) 7月中に、学生は担当教員と相談の上、実習計画を立てる。所定の様式にそって実習計画書を作成、計画書を学務課に提出する。 5) 学生は計画に従って担当教員および施設側の実習指導者と連携しながら、自立して実習を行う。 6) 毎日の実習目標、計画、実施、評価を記載した毎日の実習記録と全体サマリーを作成する。 7) シラバスの到達目標に照らしてレポートを作成する。 <p>カンファレンス</p>						<p>教務委員長</p> <p>助教以上の看護教員</p>	

テキスト	ガイダンス時に提示予定
参考文献	ガイダンス時に提示予定
他科目との 関連	看護卒業論文、看護総合演習の前提となる科目である。これらの科目で要求される論文や報告書のテーマとなる課題を特定すること。
成績評価 の方法	出席状況、実習態度、学生の計画性、実習目標の到達度、レポート等(毎日の実習記録と全体サマリーを含む)の提出物、実習施設の指導責任者、実習指導担当教員の情報、評価等を参考に、科目責任者が総合的に評価する。
学習相談・ 助言体制	各担当教員が授業開始前にオフィスアワーを提示する。
授業改善の特 記事項	開講年度に提示
備考	看護系教員が少人数の学生を担当する。原則として、看護卒業論文または看護総合演習と同じ教員が担当する。

科目コード	40131	授業科目	看護卒業論文 (Nursing Research and Evidence-Based Practices)			担当教員	○教務委員長 助教以上の看護教員 実務経験：あり	
開講年次	4年次 通年	単位数	2単位	科目	専門関連科目	授業形態	演習	
選択必修	選択	時間数	60時間	分類				
履修	前提科目	看護統合実習を履修できること。3年次必修科目成績がC 2科目以内であること。						
	その他	なし						
授業概要	統合実習において試みた根拠に基づいた看護(EBN)の過程を科学的に考察し、報告書にまとめることにより、看護の意図的な取組の論理性、実践の正確な記述、結果の適切な分析や評価のあり方、ならびに論文の書き方について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合実習での看護実践記録を正確に整理できる。 2. 実施した看護実践を科学的に考察し、論文を作成できる。 3. 上述した看護実践を要約し、事例検討会資料を作ることができる。 4. 事例検討会で発表できる。 5. 事例検討会に建設的に貢献できる。 6. 看護専門職者として必要な問題解決力(正しい課題認識・代替案の考案・相互に受け入れ可能な解決策の選択など)の基礎を習得できる。 							
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1～15回	(新学期ガイダンスにて) 概要の説明 <u>統合実習前(前期)</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学習の中から<u>看護実践上の課題</u>を探る。 2. 研究成果の活用方法を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・論文の探し方 ・論文の読み方 ・科学論文の書き方 ・Evidence based practice(EBP) ・グループ討議の技術 3. 統合実習の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の検討により看護実践上の課題とその解決方法を明確にする。 ・EBPの実施、評価を含めた看護統合実習となるよう実習計画書を作成する。 				新学期ガイダンス時に日程と共に提示する。	教務委員長 助教以上の看護教員	講義 および 演習	
第16～30回	<u>統合実習終了後(後期)</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. EBPに基づいた自身の看護実践を正確に記述する。 2. 自身の看護実践を文献を用いて考察する。 3. 一連の取り組みを論文にまとめ、事例検討会(学習成果発表会)で報告・討議する。 							

	4. 討議の結果を含めて、論文を完成させる。			
テキスト	随時提示			
参考文献	澤田昭夫「論文のレトリック」講談社学術文庫 604 澤田昭夫「論文の書き方」講談社学術文庫 153 高橋誠「会議の進め方」第2版、日経文庫、2008 八幡ひろし「会議の技術」PHP 文庫、2009			
他科目との 関連	看護統合実習			
成績評価 の方法	授業への参画、論文・資料等の成果物、事例検討会への参画等を総合的に判断する。			
学習相談・ 助言体制	各担当教員が授業開始前にオフィスアワーを提示する。			
授業改善の 特記事項	開講年度に提示			
備 考	看護系教員が少人数の学生を担当する。原則として、看護統合実習と同じ教員が担当する。			

科目 コード	40030	授業 科目	看護総合演習 (Comprehensive Nursing Seminar)			担当 教員	○教務委員長 助教以上の看護教員 実務経験：あり	
開講年次	4年次 通年	単位数	2単位	科目	専門関連科目	授業 形態	演習	
選択必修	選択	時間数	60時間	分類				
履修 各	前提科目	看護総合実習を履修できること。						
	その他	なし						
授業概要	統合実習において試みた看護実践について、科学的に振り返り、特に関心の深いテーマやさらに深める必要のあるテーマを見つけ、自己にふさわしい学習方法により、それらに関する知識や技術をさらに深め、その成果を報告書にまとめ、看護の意図的な取組の論理性、実践の正確な記述、結果の適切な分析や評価のあり方、ならびに論文の書き方について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学習過程の中から自己の課題を客観的に分析できる。 2. 実施した看護実践に必要な知識や技術を列挙でき、説明できる。 3. 自己にふさわしい学習方法を説明でき、実施できる。 4. 統合実習で見つけた関心あるテーマについて知識や技術を深め、報告書を作成できる。 5. 報告書を要約し、会議資料を作ることができる。 6. 会議で発表できる。 7. 建設的会議に貢献できる。 							
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1～15回	(新学期ガイダンスにて) 概要の説明 <u>統合実習前 (前期)</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学習の中から<u>自己の課題</u>を見出す。 2. 研究成果の活用方法を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・論文の探し方 ・論文の読み方 ・科学論文の書き方 ・Evidence based practice (EBP) ・グループ討議の技術 3. 統合実習の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・教員との対話により自己を振り返る (リフレクションする) ことで、課題を明確化し、課題解決に向けた学習方法を検討する。 ・既習範囲を含め、文献的な根拠を確認する。 ・自己の課題解決するための看護総合実習となるよう実習計画書を作成する。 				新学期ガイダンス時に日程と共に提示する。	教務委員長 助教以上の看護教員	講義 および 演習	
第16～30回	<u>統合実習終了後 (後期)</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の看護実践を正確に記述する。 2. 自身の看護実践を客観的に分析する。 							

	3. 結果を報告書にまとめ、事例検討会（学習成果発表会）で報告・討議する。 4. 討議の結果を含めて、報告書を完成させる。			
テキスト	随時提示			
参考文献	澤田昭夫「論文のレトリック」講談社学術文庫 604、2002 高橋誠「会議の進め方」第2版、日経文庫、2008 澤田昭夫「論文の書き方」講談社学術文庫 153 八幡ひろし「会議の技術」PHP 文庫、2009			
他科目との関連	看護統合実習			
成績評価の方法	授業への参画、論文・資料等の成果物、事例検討会への参画等を総合的に判断する。			
学習相談・助言体制	各担当教員が授業開始前にオフィスアワーを提示する。			
授業改善特記事項	開講年度に提示			
備考	看護系教員が小人数の学生を担当する。原則として、看護統合実習と同じ教員が担当する。			